

2019年7月22日、23日



## カリスマ

このテーマについて、シスターMariana、シスターViolaine、シスターJeannetteがプレゼンテーションを行いました。それは大変すばらしいプレゼンテーションで、「カリスマとは作業の内ではなく、人の内にある。」という、シスターMarie-Marcelleのインスピレーションに満ちた言葉から始まりました。私たちは皆、その日は自分自身を見つめ直す作業を行う日であるのだとすぐに悟りました。

姉妹たちがテーマを発表したやり方に、皆が大変感謝しておりました。それは理論的なものではなく、実践的なものであったからです。私たちに与えられた質問に答えるために、自分自身を深く掘り下げて行く省察の時間がありました。例えば：自分にとって、カリスマとはどんな意味を持つのか、そして、マルグリット・ブールジョワと自分をどのようにつなげて生きて行くのか？個人的な、より踏み込んだ省察を通して、これらの質問について数多くの答えを見い出しました。私たちは自分自身の人生の中に私たちが誇るような、そしてマルグリット・ブールジョワのカリスマと一致するような、具体的な経験を見つけました。

平和、寛容さ、そして信用という雰囲気の中でこのプレゼンテーションを経験することができました。小さなグループでの作業は興味深く、豊かな意見交換に満ちておりました。私たちは、姉妹たちが私たちへと下さったイメージの中から自分が話しかけられている、または呼びかけられていると思うものを、沈黙のうちに選択するように招かれました。

分かち合いの間、同じ方向へと進んでゆきたいと思っていることや、マルグリット・ブールジョワの足跡を辿って行きたいと思っていることなど、私たちには多くの共通点があることを発見しました。私たちは皆、他の人々に切に手を差し伸べたいのです。この欲求が、自分自身や他の人々の壁を崩し、聖母の保護のもと、同じ未来に向かって目を据えるように私たちを促してくれます。自分たちが情熱的で、与えるための愛情と憐みに満ちており、他人のためにいつもそこにおいて、世話をする女性たちであるということに気づきました。私たちはマルグリット・ブールジョワの足跡に従って生きて行く方法を共に探し求めることにより、自分たちの相違に向き合う準備ができている女性たちであるということにも、再び気がつくようになりました。また、自分たちの持つ大きな多様性も理解しています。私たちは美しい小さな花であり、お互いに異なってはいますが、皆同じ花壇を素敵に飾りつけるために仕えています。私たちは、自分たちの相違という美しさに感謝しました。何か新しいことを成し遂げ、自分たちの先入観を克服し、文化、人種、そして世代の違いを受け入れる方法を見つけたいと思っています。私たちを世界に開かれたものにしてくれるような新しい文化を、皆で共に打ち立てて行きたいと願っています。要するに、私たちには役割を果たす準備ができているということです。

マルグリット・ブールジョワのカリスマが様々な管区・地区のうちに存在していると、確信を持って言えます。カリスマに関して私たちが生き、分かち合ったすべては、相互文化というトピックへの最も適した導入であり、これからの日程において取り組んでゆくつもりです。

EstelleとLilian CND